

執筆者紹介

・藪田 貫（やぶた・ゆたか）

兵庫県立歴史博物館長兼ひょうご歴史研究室長

・笠井 今日子（かさい・きょうこ）

ひょうご歴史研究室共同研究員

西宮市立郷土資料館学芸員

『播州宍粟郡鉄山請負御用留』翻刻・解題担当

・伏谷 聡（ふしや・さとし）

ひょうご歴史研究室共同研究員

兵庫県企画県民部管理局文書課非常勤嘱託

『千草屋手控帳』翻刻・解題、編集担当

・大槻 守（おおつき・まもる）

ひょうご歴史研究室客員研究員

香寺町史研究室主宰

『鉄山一件』翻刻・解題担当

編集後記

ひょうご歴史研究室が開設（二〇一五年）されてから五年目を迎えました。調査研究グループのひとつ「たたら製鉄研究班」は、兵庫県で唯一古代から近世にかけて鉄生産を継続してきた播磨北西部の宍粟市およびその周辺をフィールドにし、宇野正磯氏に代表される先駆的研究の精査を含め、文献史学・考古学の視点から研究を進めてきました。そして「特集 播磨のたたら製鉄」（『紀要』第三号、二〇一八年）において、播磨北西部の宍粟市・佐用町域に展開する古代から近世の製鉄について研究の成果を公表することができました。さらに翌年には「千草鉄」、「たたら製鉄から近代製鉄」についての論考（『紀要』第四号、二〇一九年）も加わり一定の研究成果をあげることができました。またこうした研究の成果を一般の方々に向けて発信するため、宍粟市や姫路市内でフォーラムを企画するなどの活動をおこなってきました。

研究を開始した頃は、播磨の近世製鉄について書かれた史料は、千草屋の鉄山経営に関する事柄を記録した「千草屋手控帳」のみで、研究を進めるには

甚だ心許無い状況でした。ところが偶然にも当館に同じ千草屋の請負関係記録「鉄山御請負御用留」と播磨宍粟郡幕府領内の鉄山を管理していた山方役所作成の「鉄山一件」の二史料が收藏されていたことが明らかになりました。以後、新発見の史料をもとに研究を進めるなかで、大槻客員研究員よりこれらを翻刻して刊行してはとの提案があり、早速班内で検討し、今年度刊行する運びとなりました。翻刻は、大槻・伏谷・笠井の三名がおこない、村上泰樹・坂江渉の両名がそれを補助する体制で進め、定期的に小研究会を開催し詳細を検討してきました。藪田室長の発案で本誌を活用する利便性を考え、『紀要』第三号に掲載した「千草屋手控帳」（伏谷担当）も併せて掲載することになりました。

本誌に掲載した「鉄山御請負御用留」「千草屋手控帳」「鉄山一件」の各史料の内容と評価については各解説に委ねますが、その価値は播磨地域にとどまらず近世たたら製鉄研究の重要な史料と確信しております。今後、たたら製鉄研究班はこうした基礎的史料の掘り起こしといった研究もひとつの軸として活動していきたいと考えております。

（村上 泰樹）

『ひょうご歴史研究室紀要』別冊

「近世播磨のたたら製鉄史料集」

令和二年（二〇二〇）三月三十一日発行

編集・発行 兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室

（編集担当・伏谷聡／編集補佐・村上泰樹、坂江渉）

〒六七〇一〇〇二二

兵庫県姫路市本町六八番地

電話 〇七九一二八八一九〇一

HP <http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekiken/>

印刷

〒六七〇一〇九九二

株式会社TMP

兵庫県姫路市福沢町三六

電話 〇七九一二九二一一〇〇